

河内長野市まち・ひと・しごと創生総合戦略・地方創生推進交付金事業 総合シート

事業名称	「丘の生活拠点」(南花台)自立化推進モデル事業(事業期間:平成29年度～平成31年度)
事業の目標	<p>開発団地が連なる河内長野市南部において、それらの玄関口に位置し、「丘の生活拠点」と位置付ける南花台地域において、社会情勢の変化や地域課題の変化に対応できる持続可能なまちにするため、多様な社会実験的取り組みを通じ、地域住民・事業者連携によるまちづくり活動を継続できる仕組みと自立運営体制の構築を図る。</p> <p>具体的には、「地域の総力を結集する(地域住民だけでなく、地域の事業者や医療施設・教育機関等と密に連携できる仕組みを構築)」、「地域で考える力をつける(地域が主体となったまちづくり展開を可能にする仕組みを構築)」、「地域で稼ぐ力をつける(まちづくりに必要な経費を生み出す仕組みを構築)」、「地域の新たな資源を創出する(空地や緑地など地域のストックを新たな資源として活用する仕組みを構築)」の4つをまちづくりの仕組みとして構築することにより、「まちづくりの活動を継続してやりつづけられるまち」を目指す。</p> <p>さらに、本事業を通じて生み出された様々な社会実験的取り組みを他地域においても活用可能な事業モデルとして磨き上げ、他地域のまちづくりに応用し、横展開を図ることで、市内開発団地全体の活性化を目指す。</p>
全体の概要	<p>地域活動拠点「コノミヤテラス」を中心とした社会実験的活動の企画・実施及び活動の自立運営体制構築を図るほか、地域主体の包括的な生活支援のための多様な取り組みの磨き上げ、他地域を対象にした視察の受入れや報告会等を通じた意見交換の実施、UR集約型団地再生事業に係る新機能の誘致に向けた研究・検討等を行う。</p>

【数値目標及び実績】

項目		事業開始前	平成29年度 (増加分)	平成30年度 (増加分)	平成31年度 (増加分)	累計
地域活動を担う人材の発掘人数【人】	目標	30	20	20	20	60
	実績	/	31	11		42
地域まちづくりコーディネーターの発掘人数【人】	目標	1	2	2	2	6
	実績	/	3	1		4
ソーシャルビジネス(生活支援活動を含む)の創出(分野)件数【件】	目標	4	3	2	2	7
	実績	/	2	0		2
平成30年度の指標の状況及び事業への反映の考え方		<p>・「地域活動を担う人材の発掘」については、健康クラブや生活支援(買い物支援から取り組み拡大)、子育て支援のサポーター数が増加した。</p> <p>・「地域まちづくりコーディネーターの発掘人数」については、民生・児童委員、福祉委員などを務めている人が、コーディネーターとして活動するようになった。</p> <p>・「ソーシャルビジネスの創出件数」の実績は0件であるが、買物支援が生活支援へと取り組みを拡大したことで、支援件数が増加したほか、新たな担い手の発掘にもつながるなど、取り組みの充実が図られている。</p> <p>・各指標は概ね達成しており、平成31年度以降も持続可能な体制づくり・仕組みづくりに引き続き取り組むとともに、UR集約跡地を活用した地域活性化の取り組みや、自動運転実装事業の推進、モデル事業の他地域への横展開を図っていく。</p>				

※平成30年度実績は見込み

河内長野市まち・ひと・しごと創生総合戦略・地方創生推進交付金事業 評価シート

事業名称	「丘の生活拠点」(南花台)自立化推進モデル事業	
要素事業①	「丘の生活拠点」(南花台)自立化推進モデル事業	担当課 総合政策部政策企画課 市民生活部自治協働課

	実施内容	成果	事業費(千円)
平成30年度実施事業	<ul style="list-style-type: none"> ・提案事業総合企画調整 ・「総合研究会」など各プロジェクト会議の運営 ・地域活動拠点「コノミヤテラス」の運営及び自立化の推進 ・「咲っく南花台健康クラブモニター制度」の実施 ・「買物支援」の取組み実施および「生活支援」への取組み拡大 ・石仏地区におけるワークショップ等の実施 ・錦秀会看護専門学校との連携拡大(授業カリキュラムやスポーツイベント等での地域との連携創出) ・「コノテラ通信」発行など地域による情報発信 ・UR集約事業の推進 ・自動運転実装事業の推進 	[参考指標] ●「コノミヤテラス」オープン日数: 362日/年 ●「コノミヤテラス」運営による収益: 260,700円(H30.4~H31.1累計) (H29年: 351,100円) ●健康クラブモニター人数: 61人 (H29年: 63人) ●買物支援(延べ)件数: 95件 (H29年: 33件) ●生活支援(延べ)件数: 31件 (H30年6月開始) ●コノテラ通信発行回数: 12回 (H29年: 12回)	6,000
		(合計)	6,000

※平成30年度の事業費は見込み

	【30年度評価】	【30年度の評価内容】
担当者評価	①非常に効果的であった	「買物支援」から「生活支援」への取組み拡大や、健康クラブ、子育て支援の取組み充実のほか、新たな担い手発掘にもつながっており、自立化に向けた体制が構築されつつある。 また、錦秀会看護専門学校との連携による授業カリキュラムの実施や、学校主催のスポーツイベントに住民も参加するなど、地域との連携関係が一層、深まっている状況である。

評価: 交付金事業の目標・KPI達成に「①非常に効果的であった」、「②相当程度効果があった」、「③効果があった」、「④効果がなかった」

	【今後の課題・取組みなど】
改善	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり活動を継続できる仕組みと自立運営体制の構築を図る。 ・自動運転実装事業について、生活支援や健康づくり、子育て支援などまちづくりの取組みとも連携しながら、実用化に向けた検討と実証実験を進めていく。 ・UR集約跡地の活用に向けた調整、公園の集約に向けた検討等を行う。 ・石仏地区など南花台の周辺地域との連携を創出し、モデル事業の横展開を図ることで、持続可能なまちの構築を図る。

	【委員会評価】 下記から選択して下さい。	【評価等に対する意見】
委員会評価	取組事業が評価交付金事業の目標・KPI達成するために ①妥当である ②概ね妥当である ③検討を要する	